

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【道祖土小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	学習上の課題としては、算数「数と式」の加減乗除において、正答率が半数に満たないことが挙げられる。そのため、基本的な計算等の反復・習熟に取り組む時間を確保していく。
思考・判断・表現	学習上の課題としては、国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の無解答率が高い状況である。そのため、児童が作品・レポート等に取り組む際、評価の観点を示し、児童が思考したプロセスにコメントを付記して、評価していく。
主体的に学習に取り組む態度	指導上の課題としては、授業内において、自己の振り返りができる時間の確保と演習等を行う時間の確保とのバランスをとることが必要である。学習状況調査の結果を分析し、各学年ごとの得意・不得意を考慮した上で、45分という限られた授業時間内の学習過程の時間配分を再検討していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より3pt向上させる。	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。その際、児童の学習履歴を確認し、月に1度、個別に学習計画を立てる時間を設定する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」の平均無解答率を1割下げる。R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において「思考・判断・表現」を昨年度の自校結果より3pt上げる。	⇒ 課題に取り組む際に発問の観点を示し、児童が思考したプロセスにコメントを付記して、評価する。また居合い活動を通して、互いの思いや考えを尊重し、多様な意見のよさを生かして、よりよい学習環境が築けるように、適切に教師が指導・助言をする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が問題を発見したりして、児童が主体的に課題を解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より3pt向上させるまでには至らなかった。ドリルパーク等に関する取り組みについては、学年や学級ごとに取り組みに差が見られた。	C
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果において、国語科は「思考・判断・表現」の平均無解答率を4割下げることができたが、算数科は、変化が見られなかった。R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数において「思考・判断・表現」を昨年度の自校結果を上回ることができた。	C
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、約89%となった。読解力向上に向け、学年内で授業方法を日々検討するなど、授業の工夫改善を行った。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	「知識・技能」において、R5年度とR4年度の自校の結果と比較し、国語-6pt、算数-6ptであった。国語においては、基礎的な言葉の意味の理解力が課題である。
思考・判断・表現	「思考・判断・表現」において、R5年度とR4年度の自校の結果と比較し、国語-6pt、算数-6ptであった。自分の考えをまとめたり、話の中心を捉えたり、話し手の考えと比較して自分の考えを持つたりする読解力に課題が見られた。それらの無解答率も高い。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が87%で目標値に達しなかった。課題設定や協働、振り返りを工夫して、より主体的な学びになるよう授業改善を進める。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
小3	・国語科においては、「知識・技能」の観点で、市の平均正答率を上回っているが、「思考・判断・表現」については、市の平均正答率を下回った。 ・算数科では、すべての領域において、市の平均正答率に迫ることができた。
小4	・国語科においては、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点において、市の平均正答率を上回っている。領域別に見た際は、「言葉の特徴や使い方の」領域において、市の平均正答率を下回った。 ・算数科においては、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点において、市の平均正答率を上回っている。領域別に見た際は、「数と計算」の領域において、市の平均正答率を下回った。
小5	・国語科については、「書くこと」の正答率が、特に課題であり、「思考・判断・表現」の観点でも、「書くこと」が大きく影響した結果であると考えられる。 ・算数科においては、「図形」の領域において、市の平均正答率を上回っている。ただし、評定の観点の区分で市と比較すると、「思考・判断・表現」の正答率が低い状況である。
小6	・国語科における「言葉の特徴や使い方」「書くこと」の領域については、正答率が60%を上回っているものの、「思考・判断・表現」の観点別の正答率で市と比較すると、課題と捉えられる。 ・算数科における「数と計算」の領域については、市の平均正答率に迫る正答率である。一方で、「図形」の領域については、市の平均正答率を下回っているため、課題といえる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。漢字や熟語の習得にあわせて、送り仮名を正しく理解させる手立てを取り入れていく。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 読書活動を推進していくとともに、授業において読解力向上に向けた取組を行い、読むだけでなく、まとめる力や発信する力を育てる授業の工夫改善をする。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【道祖土小学校】

⑥ 次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。一方で、個人差が大きいことから「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることを来年度も継続していく。また、次年度の学力向上目標としては、学校全体として、課題となっている、「言葉の特徴や使い方に関する事項」を全学年で重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査等で検証したい。
思考・判断・表現	国語では、「話すこと・聞くこと」に今年度も課題がみられた。国語に限らず、児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定し、その際、児童が思考したプロセスを確実に評価することを今後も継続していく。さらに、教科横断的な視点として、グラフ等の資料を用いる際、資料の見方を高めていく意図的な発問を教師が意識して授業を展開していく。そして、各教科の授業で、根拠資料を基に、自己の考えをまとめ、発表する活動も引き続き重視していく。

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	〈学習上の課題〉国語では、「言葉の使い方や文法」「漢字」などの基礎的な内容に課題がみられた。算数では、主に「数と計算」に課題がみられた。 〈指導上の課題〉児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が、十分でないことが考えられる。	⇒ 基礎・基本を定着させるために、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む【効果的な習熟の時間の設定】。その際、児童自身が個別に自分の課題を把握する時間を設定する【単元ごとの実施】。
思考・判断・表現	〔学習上の課題〕国語では、「話すこと・聞くこと」に課題がみられた。算数では、「変化と関係」や「データの活用」に課題がみられた。 〔指導上の課題〕児童が、目的意識や相手意識を明確にして、自己表現する必要がある。	⇒ 児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定する【単元ごとの実施】。その際、評価の観点を示し、児童が思考したプロセスを確実に評価する。【毎回実施】

⑤ 評価(※) 調査結果 授業改善策の達成状況	
知識・技能	B 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることができた。その際、自分の課題を設定した上で、学習に取り組むことができた。国語では、「言葉の使い方や文法」「漢字」などの基礎的な内容に課題がみられたが、市や全国の平均正答率と比較すると学年によって差はあるものの、学校全体として上回る結果となった。算数では、主に「数と計算」に課題がみられたが、市や全国の平均正答率と比較すると学校全体として上回る結果となった。
思考・判断・表現	B 児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定した。またその際、評価の観点を示すことで、児童は明確な目標を具体的にイメージしながら発表することができている。国語では、「話すこと・聞くこと」に今年度も課題がみられた。算数では、「変化と関係」には課題がみられ、「データの活用」には市の平均正答率を上回るなど、改善がみられた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	・国語における本校の結果は、評価の観点において埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、「情報の扱い方に関する事項」が埼玉県平均・全国平均ともに下回る結果となった。具体的には、情報と情報の関係の仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかにか課題がみられた。考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりする活動を、今後も継続していく。 ・算数における本校の結果は、評価の観点において、埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、知識・技能を問う問題の半数以上(9問中5問)で、埼玉県平均・全国平均よりも高い無解答率の結果となった。引き続き習熟学習を確保し、学びに向かうために必要な技能面の定着を心掛けていきたい。
思考・判断・表現	・国語における本校の結果は、評価の観点において、埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。また昨年度、本校の課題となった「話すこと・聞くこと」の項目では、改善がみられ、どの説明も正答率が高い結果となった。一方で全国でみられた課題と同様、事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題がみられた。また人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えていることができるかどうかを見る問題にも課題がみられた。 ・算数における本校の結果は、評価の観点において、埼玉県平均・全国平均と比較すると、ともに上回る結果となった。ただし、思考・判断・表現を問う問題の半数以上(7問中5問)で埼玉県平均・全国平均よりも高い無解答率の結果となった。国・算共に、子どもが主体となって学習を進めていく学習過程の改善が必要であろう。

- 1 結果分析(管理職・学年主任等)
- 2 詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	・国語における本校の結果の中で、課題として共通の内容は、「漢字を正しく書くこと」「文の中の主語と述語の関係を理解することができる」である。今後も継続して基礎・基本を定着させる活動を意図的に取り入れていく必要がある。 ・算数における本校の結果の中で、課題として共通の内容は「数と計算」の領域であった。国語と同様に算数においても、今後も継続して基礎・基本を定着させる活動を意図的に取り入れていく必要がある。 ・理科については5・6年共通して、「電気の通り道を「回路」ということを理解している。」に課題がみられるなど基本的な問題を習熟していく必要がある。
思考・判断・表現	・国語における本校の結果は、全体的に市の正答率を上回る結果となった。しかし、その中でも「読むこと」の領域の、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することを問う問題では、どの学年でも課題がみられた。 ・算数における本校の結果は、二つの数量関係の場面と図を関連付けて考える問題の正答率が、特に課題と言える。

③ 中間期報告			
	評価(※)	授業改善策の達成状況	中間期見直し 授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等の個別最適化されたアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組ませることができた。その際、自分の課題を設定し取り組むことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	児童が自分の考えをもち、伝え合う活動や説明する場面、発表する場面を意図的に設定し、その際、評価の観点を示すことができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)